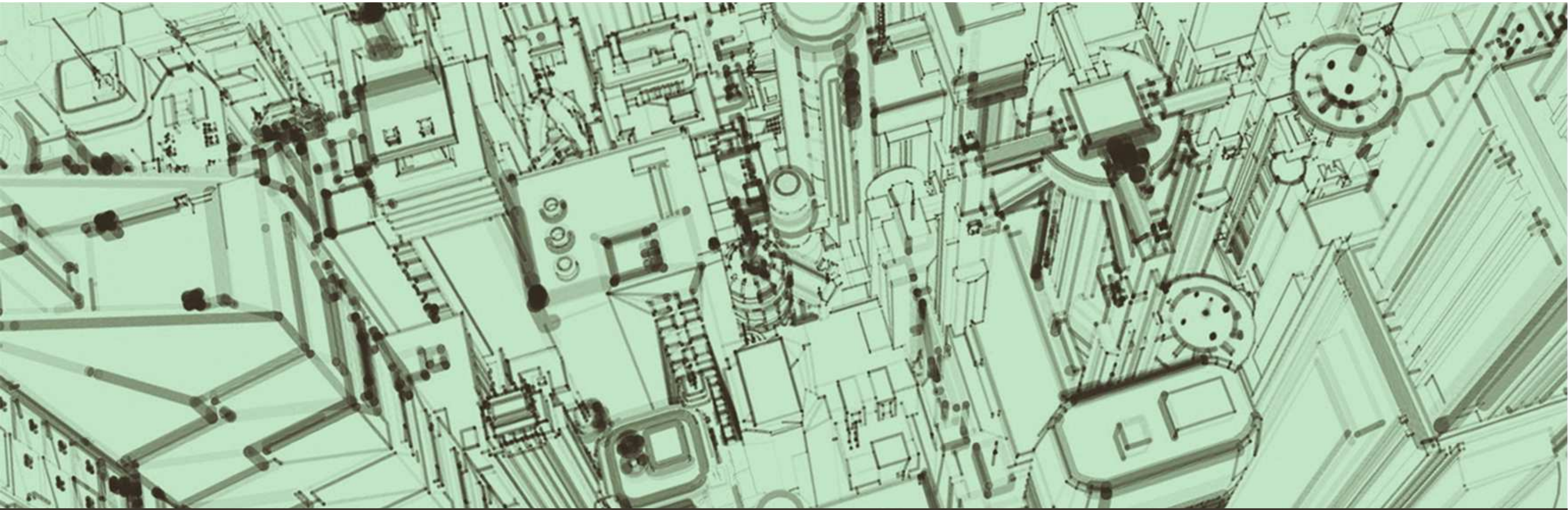


商店街にぎわいづくり検討ワーキンググループ会議

いわき市　四倉地区

会津まちづくりパートナーズ 合同会社

自己紹介

会津まちづくりパートナーズ合同会社

代表社員　　阿部　雄一郎

・大学進学を機に上京、その後テレビ番組の制作会社に勤務。

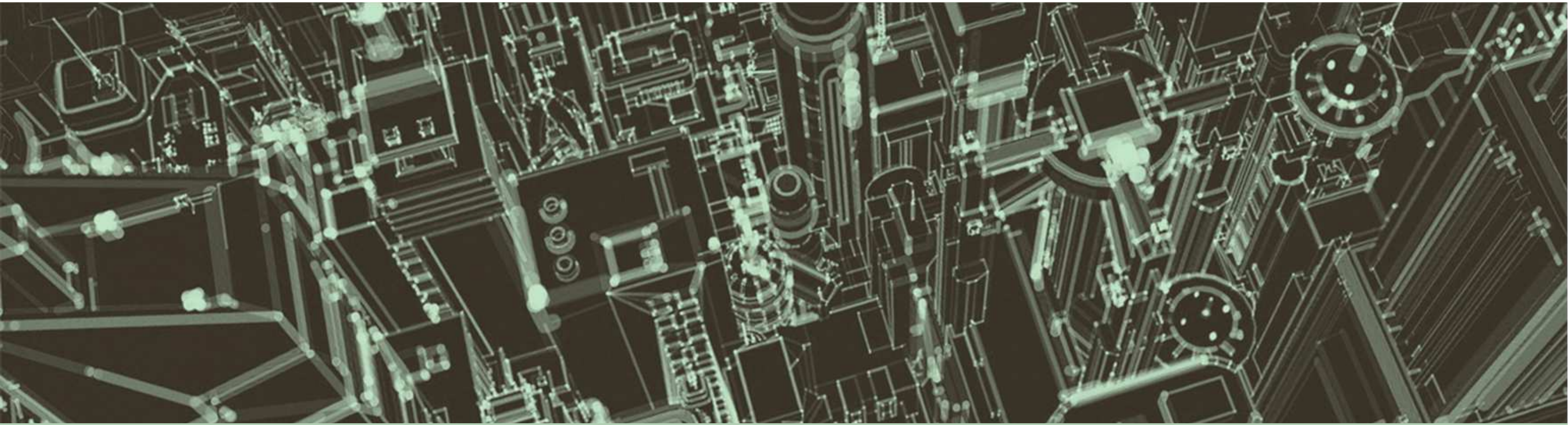
・12年前の震災をきっかけにＵターンし、会津若松市の第３セクターである㈱まちづくり会津に勤務。

・会津若松市商工課主催「まちなか賑わいづくりプロジェクト」など、中心市街地を中心とした地域活性化事業に従事。

・2015年に「会津まちづくりパートナーズ合同会社」を設立し、独立。

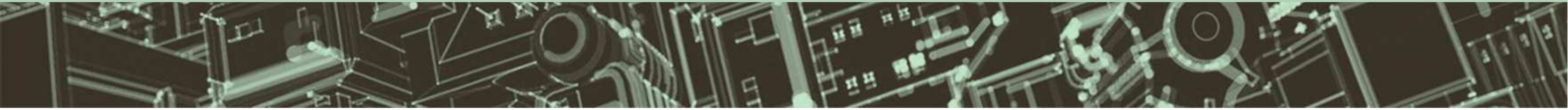
・会津若松市を中心とした会津管内において、商店街や行政機関、関連団体等の地域活性化事業に携わっている。

・主な業務は、地域活性化事業等の企画立案・推進業務や組織の事務局業務、動画制作など



１．事例紹介　ハード事業

会津まちづくりパートナーズ合同会社



チャレンジショップ yui 結 事業

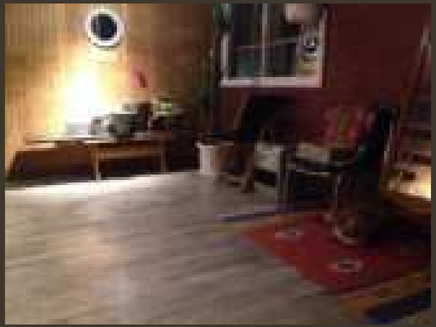
所在地	会津若松市馬場町１－１８
オープン	平成２３年７月２日
事業主体	㈱まちづくり会津
面　　積	［１階］１２３．１４㎡ ［２階］１０３．００㎡
入居業種	H23　喫茶、輸入雑貨、着物、ﾊﾟｿｺﾝｸﾞｯﾂ、農産物・ｹｰｷ、ｲﾝｷｭﾍﾞｰｼｮﾝ施設 H24　飲食店、着物、ｲﾝｷｭﾍﾞｰｼｮﾝ施設
補助金名	H23　会津若松市「取り戻そう！元気な会津。」事業補助金 H24～会津若松市ﾁｬﾚﾝｼﾞｼｮｯﾌﾟ補助金
総事業費	H23　　５００万円（家賃、改修費等） H24　　１０８万円（家賃の1/2）

・会津若松市の補助制度終了とともに事業も終了。
・運用期間中に合わせて10事業者が入居しており、その内4事業者が市内空き店舗に独立した。
・当該施設についても空き店舗が解消されている。

LINK大町 事業

平成24年より会津若松市が実施していた賑わいづくりリーダー育成事業から創業した起業家が、市内にある3階建ての空きテナントをリノベーションし、賑わいの拠点となるような施設を整備した。

所在地	会津若松市大町二丁目10-11
オープン	平成26年11月1日
事業主体	㈱リンクステーション ㈱ 9C wellbeing
面　　積	［１階］81.61 ㎡ ［２階］81.61 ㎡ ［３階］77.45 ㎡
入居業種	1F　コミュニティ施設 2F　インキュベーション施設 3F　ヨガスタジオ＆ショップ
補助金名	創業補助金（地域需要創造型等起業・創業促進事業）
総事業費	７００万円（改修費等）



・支援終了後、事業者間のトラブルなどにより残念ながら閉館。
・創業した2事業者の内１事業者は、現在も事業継続中。
・当該施設については、現在空き店舗となっている。

ボクらの遊び場！駄菓子カフェ

所在地	会津若松市大町二丁目10-11
実施期間	平成29年1月28日～3月25日
事業主体	会津若松市役所通り商店街振興組合
面　　積	［１階］60　㎡ ［２階］12.24　㎡
入居業種	1F　**駄菓子カフェ** 2F　コミュニティスペース
補助金名	H28ふくしまの子・ふるさとの商店街プロデュース事業
総事業費	１９０万円（家賃、光熱費、改修費等）

　子どもたちからの「新しいお店を増やす！」「子どもが来るようなお店があったらいい！」といった意見から商店街エリア内の空き店舗を活用して、期間限定の駄菓子カフェをオープンした。

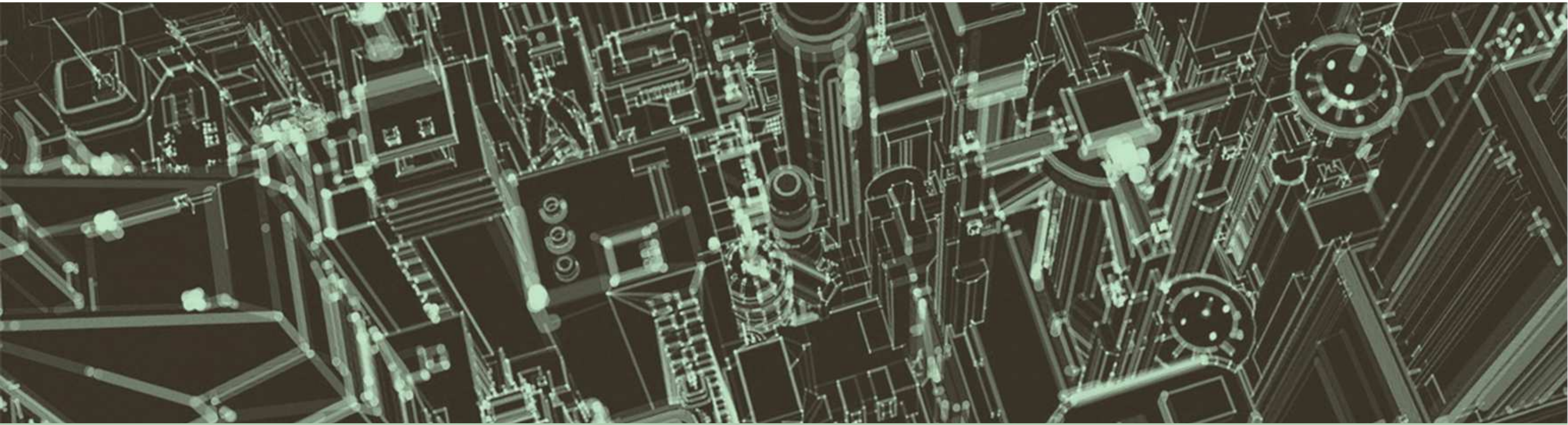
・継続を望む声が多かったが、駄菓子カフェを商店街だけで運営していくことは、特に採算性という面で困難であったため、継続はできなかった。
・来場者は2か月で約2,000人(子ども：大人＝7：3)あり、学校帰りの子供たちで賑わった。
・当該施設については、空き店舗が解消されている。

會津商人館

創業者育成による商店街活性化と多世代交流コミュニティ拠点整備を目的として、商店街内に商業施設を新築した。

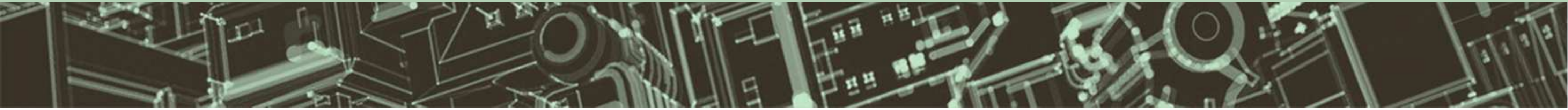
所在地	**会津若松市栄町**1-20
オープン	令和元年8月11日
事業主体	神明通り商店街振興組合
面　積	［１階］213.69 ㎡ ［２階］213.69 ㎡
入居業種	1F　**コニュニティスペース**2**区画、コミュニティカフェ、創業者支援用飲食店舗スペース**2**区画** 2F　創業者支援用物販店舗スペース8区画、インキュベーションスペース4区画、OA室、商談室
補助金名	H30地域・まちなか商業活性化支援事業（地域商業自立促進事業）
総事業費	１億円（改修費等）

- オープン後すぐにコロナ禍に突入し、入居予定者のキャンセルが相次ぎ、計画通りにはいかなかった。
- 現在、計画を見直し、再始動を目指している。



２．事例紹介　ソフト事業

会津まちづくりパートナーズ合同会社



ドクトル野口親子で健康まつり

　子育て世代をターゲットとした親子で楽しみながら参加できるイベントを開催した。屋外広場に木育をテーマとした遊具を設置するとともに、月齢の低い子供たちのために屋内会場も設置した。また読み聞かせや親子体操、子育て相談などのコーナーも併せて設置した。1日限定のイベントであったが、来場者数は1,000超を数えた。

開催場所	野口英世青春広場
事業主体	野口英世青春通り協議会
補助金名	R3　福島県地域創生創生総合支援支援事業（サポート事業）
総事業費	５９万円（会場設営費、広報費等）

親子で楽しもう！Nゲージ運転体験

　商業ビルの空きスペースを借用し、巨大鉄道模型（7m×3m）を設置して、来場者もNゲージ車両を持参して、また持っていない方には、貸し出しの電車を自由に走らせることが出来る参加型のイベントを実施した。上記「子どもの遊び場」と連携し同時開催したことで面的な賑わいづくりができた。

開催場所	リオン・ドールガーデン3階
事業主体	神明通り商店街振興組合
補助金名	R3　福島県地域創生創生総合支援支援事業（サポート事業）
総事業費	５２万円（会場設営費、広報費等）

裏路地ナイトバル

　会津の“呑み文化”を生かし、立ち飲み形式のＢＢＱイベントを実施した。市役所通り商店街の地域資源である“おさすり地蔵”や“路地裏”の魅力を発信するとともに神明神社祭礼に訪れる市民、観光客等を当商店街にも引き込み、一体的な賑わい創出を図った。当該事業は完全チケット制で実施しており、無駄を省きつつ、収支はほぼトントンで継続的に実施している。

開催場所	おさすり地蔵前空地
事業主体	会津若松市役所通り商店街振興組合
補助金名	会津若松市中小企業及び小規模企業振興補助金（イベント補助金）
総事業費	１３０万円（仕入れ、会場設営費、印刷費等）

まちなか探検！開運・五福小地蔵探し

市役所通り商店街の地域資源である“おさすり地蔵”に子どもたちが着目し、考案した事業。子ども達がデザインした小さな可愛らしい小地蔵を商店街の様々な場所に配置し、“小地蔵御朱印帳”を頼りに、まちなかを 探索して御朱印を全て集めるとプレゼントがもらえる。来街者の増加および回遊性の向上、話題性の提供を目的と した。

開催場所	会津若松市役所通りエリア
事業主体	会津若松市役所通り商店街振興組合
補助金名	H28ふくしまの子・ふるさとの商店街プロデュース事業
総事業費	２３０万円（小地蔵制作費、広報費等）

まとめ

1．ハード事業は、恒常的な賑わい創出や建物の修繕ができるなどメリットも大きいが、多額の費用や実現に要する時間がかかるなどのデメリットも大きい。

2．ソフト事業は、単発の賑わい創出になりがちなどのデメリットもあるが、地域資源の活用などアイデア次第で、費用も実現に要する時間もそんなにかけずに実行できるメリットが大きい。

3．ソフト事業で実証実験的に事業を実施して、その後必要に応じてハード事業に着手するという段階を踏んだ展開も考えられるので、まずはソフト事業に取り組むことがおすすめ。

4．事業を考案する上で「①地域の特性を生かす」「②主体となる組織をしっかり構築」「③身の丈あった予算構成」「④実施運営する人が楽しんでできる」の４つの要素は、実現または継続にかかる大切な要素。